

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



アブラムシとアリとテントウムシの深い関係



- 3月になり気温が上がるとアブラムシの発生が始まります。初めはマメ科雑草やウメから、やがてモモに発生すると葉が葉裏に巻くので気付きます。
- アブラムシは植物の樹液を吸い、余った糖分は排出し、甘露としてアリの餌となります(図)。
- テントウムシはアブラムシをバリバリ食べてしまう天敵です。アリは小さな身体ですがテントウムシに寄ってたかって戦い、追い払ってしまいます。
- アリとアブラムシは相互に助け合って生育する相利共生関係にあります。アブラムシはアリマキとも呼ばれます。アリマキのマキは牧場の牧です。
- これらの関係は、アブラムシを防除するには殺虫剤に頼るだけではなく、テントウムシ等の天敵やアリ等の複数の生物の相互関係にも配慮しながら進めるべきであることを示しています。

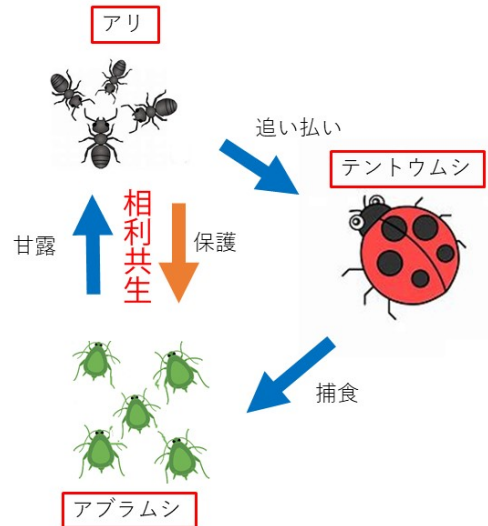


図 アブラムシ、アリ、テントウムシの相互関係



地球温暖化と凍霜害発生



- 近年、モモの凍霜害の発生事例は年々増加しており、事前準備と事後対応の重要性が高まっています。
- 特に1970年～80年代から年間を通じて気温が上昇しています。その傾向は開花期を迎える3、4月の月平均気温の推移に明瞭に表れています(図)。
- 一方、4月の最低気温の推移も温暖化とともに上昇しているので凍霜害は減少すると期待されます。
- そうなっていないのは、現在も急な冷え込み等不安定な天候は一向に減少しているわけではなく、開花期が早期化している分だけ年によっては凍霜害にあらう危険性が反対に高まってしまうためと考えられます。

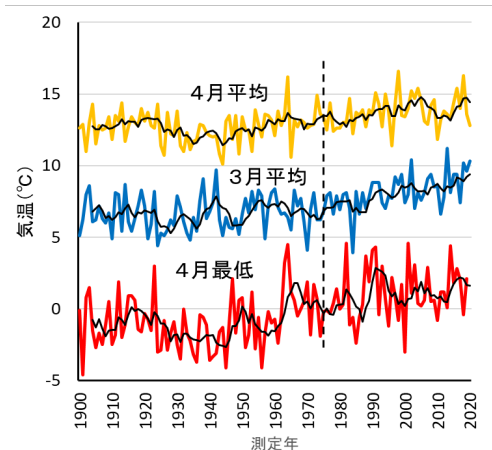


図 3月、4月の月平均気温と4月の最低気温(甲府、1900-2020年)